

令和5年度「指導と評価の年間計画」(シラバス)

教科	科目	解説学年 (年次)	単位数	教科書名	副教材
国語	言語文化	1	2	新編言語文化(数研出版)	『古文・漢文と一緒に学ぶ 古典の手引き』(いづな書店) 『カラー版新国語便覧』(第一学習社)

到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。
評価の観点	<p>【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>【思考力・判断力・表現力】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>

月	考查	教材名	学習内容	時数	評価方法
4	一学期中間考查	地域の「ことば」『とんかつ』	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について考える。	3	授業態度 発表 発問評価 指名音読 ノート (ワークシート)提出 小テスト 定期考查
4		「ことば」を吟味する『舟を編む』	辞書編集という作業を通して言葉に真摯に向かい合う登場人物たちのやり取りを読み取ることで、「言葉を大切にすることはどういうことか」について考える。	2	
4・5		受け継がれる古典『羅生門』	情景描写や比喻表現に注意しながら、登場人物の行動や心理の変化を読み取る。	3	
5・6	一学期期末考查	詩歌を味わう	詩歌のことばを通して、言葉の持つ価値への認識を深める。詩の表現から当時の状況や作者の思いを読み取る。	8	
6		語感を磨く『側転と三夏』	俳句の特性を取り入れた小説を読むことで、言葉が持っている響きを感じ取り、言葉に対する感覚を磨く。	2	
6		「ことば」の力『葉桜と魔的』	文学作品から時代のありようについて理解し、考える。登場人物の状況と思いを読み取る。	3	
6・7		文体の魅力『名人伝』	作品内の寓意や批評性、人間や社会に対する作者の視点に注意しながら作品を批評的に読んでいく。	3	
7・9	二学期中間考查	記録する文学『沖縄の手記から』	作品を通して戦闘という行為の悲惨なありさまに触れ、戦争が人間の心にもたらす深刻な葛藤を見つめ、戦争に対して自分たちがどのような立場をとろうとするのかを考える。	3	
9		古文の世界を楽しむ『宇治拾遺物語』	児の心の動きを丹念に追うことで、現代にも通じる心の動きを読み取り、古文の面白さを感じる。また、古文独特の語についても理解する。	6	
9・10		現代にも生きる教え『徒然草』	本文の内容理解を深めるとともに、自らの生活を振り返る。また、古文の特徴的な表現を意識して現代語に改めたり、用言の活用等を学ぶ。	4	
10	二学期期末考查	昔と変わらない人の心『伊勢物語』	地の文と和歌が密接な関係をもって構成されている「歌物語」の特徴を学ぶ。また、『伊勢物語』の文学史的な位置づけを学び、平安時代の文学に対する理解を深める。	4	
11		和歌が作り出す世界『万葉集』	『万葉集』の音読を通して、おおらかでのびやかな調べ、五七調のリズムを体感し、和歌に親しむ。	3	
11		戦乱下の人間像『平家物語』	「語りの文学」の特徴とも言える音便・対句、口語表現に注目しながら、登場人物の心情や人物像を考えさせる。さらに、本文を通して、戦の作法、武士の生き方について理解する。	5	
12	学年末考查	先人を思う旅『奥の細道』	芭蕉の心情や感慨を眼前の情景と共にイメージしながら俳句を鑑賞し、芭蕉の俳諧を貫く「不易流行」の思想を学ぶ。	4	
12・1		日本語の中に生きる漢文『訓読のきまり』『格言』	漢文訓読の基礎を学ぶとともに、漢文の語法や訓読表現が日本の言語文化に大きな影響を及ぼしてきた歴史的経緯について理解を深める。	5	
1・2		故事と成語『助長』『虎の威を借る狐』	故事成語の典故となった短い寓話を読むことを通じて、訓読の基礎知識を定着させる。また、故事成語が実際にどのような場面で使われるかを考える。	4	
2		漢詩を味わう『中国の漢詩』	日本の言語文化に大きな影響をもたらした唐詩に触れ、唐詩の形式や唐代の人々の感じ方・生き方を学	4	
3		論語のことば『論語』	現代にも伝わる著名な章句を中心とした『論語』の内容に触れることで、儒家の経典と日本の言語文化の関りを学ぶ。	4	